歴史教育

小学生の郷土研究

北へひろがる別府

…石垣地区を中心として…スライド発表…

安部　巌

1　郷土研究の視点（現代史）

一、序言

小学生の郷土研究（歴史、地理、社会）はどのようなかたちでおこなわれるのが理想であろうか、このようなことを意識しながら六年生の子ども達のクラブ指導にとり組んできたが、その成果として「北へひろがる別府……石垣地区を中心として」が完成したので、研究の概略とその成果を記し実践報告とする。

二、社会科学習の総仕上げ

子ども達は、一年生に入学してから五年間社会事象を素材として、問題をみつけ、それを解決しながら、物の見方や考え方を、学年にそって組み立てられた単元を学習することによって育てられたことになっている。

然し、六年生となった子どもたちは、果して、社会生活の基礎をしっかりと身につけてきたであろうか。そこに一抹の不安

があるにもかかわらず、子どもたちは、六年生の単元で、自分達にとって経験のあさい日本の政治、日本の歴史、世界の国々、世界の平和について学習する。

そこに大きな谷間がある。その谷間を埋めることができるものは何であろうか……。

人は地域をはなれて生活することはできない、しかもその地域は、父あり、母あり、友人の住む地域郷土である。こう考えてくるとき、郷土を多面的な角度からのぞきなおしてみることは極めて大切な事であり、子供の認識を再編成する事になるであろう。

三、歴史学習の谷間を埋め度い

日本歴史の学習で、おもな事象の年考をおぼえたり、事象を知ったりするだけの学習に終ったとしたら、五年生までに学習してきた歴史学習が実るどころか、断片的な知識（個別的知識）の積みあげとなり、社会科の学習とは程遠いものとなり、子どもの歴史的思考は全く働かず、生きて働く子どもの力になるどころかほっそりとしぼんでしまうだろう、そこで、六年生では、指導計画の作成に当っては各時代の社会がどんな類型的特色をもっているかを考えさせるような教材構成を仕組む事は勿論であるが、学習展開に当っては、五年生までに学習した歴史的な思考や歴史的判断を計算に入れなくてはならない。

このように考えてくると、ここにも谷間があるように思われてならない。その谷間は、日本史と郷土史との接点にあるとも考えられる。その谷間を埋めるものは、日本に於ける各時代の類型的特色を学習しながら郷土史を研究することによって或程度埋めることができるであろう。

四、自然条件や社会条件を重視した地理学習であるために、五年生で学習した産業についての基礎的な見方を足場にして、世界各国の産業が自然条件や社会条件の上になりたっていることを学習するので六年生の地理学習であると考えてくると、案

外身近な足下の自然条件や、社会条件は無視され勝ちであると思われる。
私たちの住む郷土、それはせまい地域的な広がりを持っているが、その中に、日本地理世界地理の縮図が見られるからである。具体的な事例に就ては別の機会に述べてみたいと思う。

五、具体的な資料は身近なところにある。
政治の仕組みの図式を機械的に覚えこませたり、出来事を羅列的に教えたり、更に教科書の文章を機械的に記憶させるということは社会科の学習に於けるねらいではない。あくまでも具体的な事実資料を通して、政治のはたらきをとらえさせたり、出来事の基本的な社会的原因を考えさせたりして、そのものが持っている問題を解決する方法を発見させる事が社会科のねらいである。そのためには、子ども達がたえず問題意識を持つ事が大切である。
だから、具体的な資料を身近なところから発見し、それについて思考する能力を育てるために郷土を研究することは意味ある事であろう。

六、変貌する石垣に視点を置いた。
地域の姿を形象としてとらえるためには、どんな方法があるのだろうか。その議論はしばらくおくとして、私は、石垣地区そのものを変貌する石垣としての立場からとらえ、クラブ活動の時間を通して研究をすすめることにした。
次に若干石垣地域の実状について述べてみたい。
石垣地域は、どんな変貌のしかたをしているのであろうか。それをしるためには、時間的な経過の面（歴史）空間的な広がりの面（地理）産業、政治、経済上で占める位置（社会）の三つの面からながめることが大切であろう。
しかもその三面は、個々に独立して存在するものではない。以下このような角度から石垣をながめてみることにする（石垣

風土記上参照）

石垣地域とは、石垣原台地から別府湾西岸に達する地域の総称であり、地理学上石垣原台地と呼ばれ（行政区域の面からながめると昔は今日よりはるかに広大であった）東は別府湾に接し、国際観光港を通じて関西各地と深い関係をもち、西は実相寺山をへだてて速見火山群の主峯（一三七五）を望見する位置にあり、北には鹿鳴越断層線の山々と国東半島、南には小鹿山系とそれに併行する朝見川断層線を望見する位置にあり、北には鹿鳴越断層線の山々と国東半島、南には小鹿山系とそれに併行する朝見川断層線を望見する風光絶佳の地域であり、海岸線にそって国道十号線、別大電車軌道、日豊本線等が南北に長く伸びて交通の便は極めてよい。又、海岸春木地区は、九州横断道路（ヤマナミハイウェイ）の起点であり。九州西部との交通も至便である。

古い部落は、石垣原台地、南北約三粁に亘って散在し、上人、中須賀、桜ヶ丘、春木、南須賀、吉弘、南石垣、実相寺等の集落にわかれている。而してこの地域は、ごく最近まで市街地別府、温泉地鉄輪、南立石、市街地亀川にはさまれながらも温泉の湧出をみなかったために、実相寺山及びその山麓地帯と共に静かな環境を守り農業を営んでいたが、都市近効の農村である関係から蔬菜園芸も又盛んであった。

然し、第二次世界大戦後、国際観光港の着工（昭和二六、一〇）及びその竣工、九州横断道路の開通、日豊本線の復線化、国道十号線の拡巾、温泉くっさく技術の進歩、別府市街地および亀川市街地の南北への異常な発展、更に温泉観光地鉄輪の発展と観光港との有機的なつながり等に刺激されて地域の様相は一変しようとしている。一方地域内においては、上人、中須賀、桜ヶ岳地区、九州横断道路沿線、海岸国道ぞいの地域等に次々と新施設（旅館・食堂・ドライブイン・車修理工場・ガソリンスタンド・商店・各種サービス業・市場・旅館案内所）等が建ちはじめ、急速な変ぼうが目の前に展開している。（このことは、一方において、数多くの歴史遺構、遺物を失ないつつあり、文化財保存の立場から考えると、そのそうしつがおしまれてならない）

然し都市計画の実施は、日豊本線以東の海岸部、南石垣の一部を除いて未完成ではあるが、春木川以南において青写真は既に完成、各地で道路工事が積極的におこなわれているので区画整理の完成は遠いことではあるまい。

この事は、最近まで純農村として、息づいて来た緑の石垣が、周囲の観光開発に刺激されて、急速に都市化への変ぼうを遂げようとする一断面の時期であるということができよう。

以上が変貌する石垣の概観である。

× × ×

以上郷土研究をするにあたって、私達がとった五つの立場についてその概略を記したが一口にいえば、ゆれ動く石垣の実態を摑ませる事によって、社会的認識と更に社会科的思考の力をつけさせ度いと考えたともいえる。

2. 研究の計画と実践

研究の計画は、前に述べた視点にそってたてられ、第一年次（昭和四十一年度）第二年次（昭和四十二年度）は、石垣地域の歴史、地理、社会について調査集約し石垣風土記としてまとめたが、第三年次、第四年次はそれに続く研究として、昭和四十三年度には、「石垣の自然と生活」を、昭和四十四年度は、「北へ広がる別府」について調べて来たが茲では、四三、四四年度分の研究計画について述べてみたい。

（昭和四十三年度研究計画）

一、主題　石垣の自然と生活

二、視点

残像と顕像の二つの窓から、資料を精選集約しながら石垣の現実を動的にとらえ、対策や未来像を描く

・残像…過去の事態を知ったり、推察したりすることのできるもので、現在残っているもの、保存の対策が講ぜられているものも、対策が講ぜられていないものもある。

・顕像…社会は静止していない。その事を証明するもの、石垣地域では、新らしいものが造られ始めており、それを現実に捉える事ができる。この研究では顕像と呼ぶ事にする。

三、研究途上の注意事項

1　六年生児童のクラブ研究であるため、既に三、四年で学習した郷土学習の基盤の上にたつ。

2　五年で学習した日本と、六年で学習する世界と関聯させながら郷土石垣を抱握する。

3　石垣だけの地域にかぎらないで、広がりのあるものと考え、他の地域との関聯の中で考える。

4　社会科の領域や社会の機能、指導要望の目標内容等からも研究項目の分類を試みる。

（例）歴史（内容省略）

地理（内容省略）

社会……政治

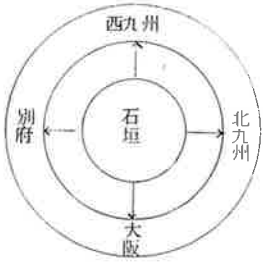
経済

社会

交通通信運輸

産業

其の他



5　資料の蒐集にあたっては、ききとり、現地調査、新聞雑誌の記事、図書館資料、写真等あらゆる方法を採用する。

6　蒐集された資料（写真、図表、記録、文書統計、グラフ、遺物）は研究項目にしたがって分類し、不足しているものについては更に蒐集を続け、一つの項目についても資料がまとまったら問題をみつけ、問題が出たら、資料を使いながら話し合いによって考え問題を解決する。若しクラブ員の話し合いで解決のつかない時は問題点として残す場合があってもよい。その場合は、記録の最後に教師の指導助言を入れる。

四、研究の領域案

1　残像

・遺跡…縄文、弥生、古墳、大和、奈良、平安、鎌倉、南北、室町、安土、桃山、江戸、明治、大正、昭和前期、昭和後期

・遺構…自然（山、川、田、畑、海岸、高原、台地、山嶽、海岸）住居（農家、寺院、神社、倉庫）街道、林相、植物、交通路、水路、堤防、湖、沼

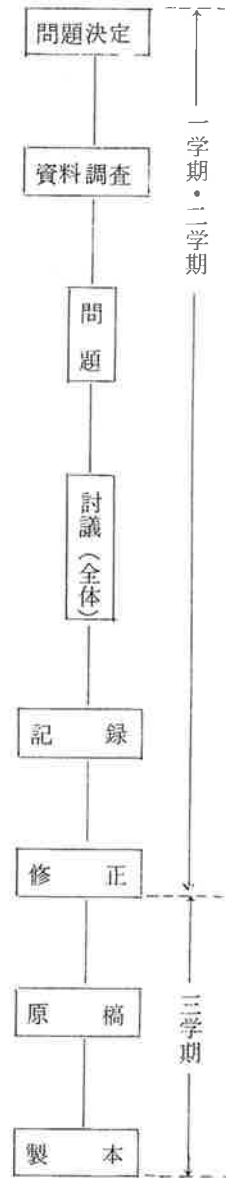
2　顕像

・産業…農業、林業、水産業、牧畜業、工業、鉱業、商業、自由業、サービス業、観光産業

・交通通信…交通路（道路、道巾、交通量）施役（修理、車庫、給油、信号、交通規制）等

・住居…建築（近代建築、アパート、一般住宅）

五、研究日程、計画



右のような計画のもとに研究を実施したが、資料の蒐集にかなりの期日を要したため、資料の整理までの作業が精一杯であり、内容の検討や、考察にまで及ばず、小学校におけるクラブ活動の時間確保に大きな問題が残っているようである。

（昭和四十四年度研究計画）

一、主題　北へひろがる別府

二、主題改訂の理由

・過去の研究の発展として

石垣風土記の誌上発表と、昭和四十三年度の研究は、調査の角度は違うが、主として地域の具体的な個々の事実を調査し集約したものが多かったために、昭和四十四年度は、それらの研究の発展として「動く石垣をとらえることが必要である」という先生方の意見もあり、クラブとしても、むだな事であると考えた。

・石垣地域は静止していない。

最近の別府市街地の広がりを平面的にながめてみると、旧市街地から西北にむかって急速に広がっているが、わけても区画整理のおこなわれている石垣方面への発展は目覚しいものがあり、北へひろがる別府の主題をとりあげることにした。

・問題を持つテーマである。

問題のないところに子どもの思考はない、事実存在するデーターに接し、その異同をみつめ矛盾を発見し、「それはなぜか」と不審を抱くところに問題が起るわけである……このような意味からも、このテーマは適切であると考えられた……（そのためには、あるがままの資料をそのままとりあげ、すなおに見詰めることが大切なので、この冊子には問題解決のため必要と思われた資料をできるだけ多く収めた）

・統計教育研究大会参加について県教委、市教委よりの研究発表要請があった。

三、研究発表の視点と内容

1　期日　昭和四十四年十一月二十七日

2　場所　別府国際観光会館

3　発表　小学校…社会（十五分）生徒発表

題目「北へひろがる別府」

中学校（理科ー内容省略）

4　内容

・統計のよさを打ち出しながら課題を解決していく。

・事実と事実の中から、課題を生み出しながら解決していく（静岡の場合は、普通の学習時間中にやったものを発表したが、石垣小学校の場合は、クラブ活動の研究を発表する…

・課題…北へひろがる別府

イ、別府のイメージを出す。
ロ、身近で学習に密着したものであること。
ハ、課題解決的で学力の定着をあわせねらったものでありたい。

5　発表の中に次のようなものを出し度い。
イ、方法的なものが子供から出たものでありたい…　調べ方、まとめ方
ロ、視聴覚教材の利用（スライド発表）
　内容として考えられるものは、グラフ、写真、調査の姿、タイトルの工夫等
ハ、素朴で子供らしさのある中に新鮮さがほしい
ニ、研究物　二五〇〇字、四ページ位のものにしたい、

以上が、研究を始めるにあたっての協議内容である。

3、研究経過

昭和四十一年…石垣地区の歴史、地理、社会の三方面に亘って専ら資料の蒐集をおこなった。…クラブ員十三名。
昭和四十二年…集めた資料を分類整理し、石垣風土記の編集に重点をおき、昭和四十三年四月一日、私たちの郷土石垣風土記百部出版ークラブ児童二十七名
昭和四十三年…石垣の自然と生活を残像顕像の二ツの窓から資料を精選集約し、石垣の現実を動的にとらえようとしたが、資料の蒐集だけに終った。
昭和四十四年

四月、クラブ編成、スライド構成

十一月二十七日、全国統計教育研究大会でスライド発表をおこなう。

4. 研究成果（スライド）

（以下研究成果としてスライド及び続石垣風土記が編集されたが、ここではスライド解説のみを参考として記す。）

① 北へひろがる別府（タイトル）

私たちの郷土クラブでは、北へひろがる別府について調べてきましたが、その研究のしかたや、研究の途中問題になったこと、研究してわかったこと、さらに問題として残っていることなどについて発表したいと思います。

② 問題を求めて（話し合いの写真）

私たちは、クラブの話し合いで、何を研究するかが問題になったが、まず学校附近や、校区にある史跡や遺構、施設などを見学し、さらに大昔のこと、江戸時代のこと、今のことなどについて先生から話をきき、それをもとにして、研究をすすめることにしました。

③ 歴史を調べる（春木遺跡写真と子ども）

この写真は、学校の北、一〇〇〇米のところにある古墳や遺跡の研究に行ったときのものです。復原された家の前で、先生から弥生時代や古墳時代に石垣に住みついていた人々のくらしのことや、使った道具、住んだ家、たべものなどについて話を聞き、そのあとで、古墳ふきんを通っている江戸時代の街道について調べました。

④　昔の交通

この写真は、小倉・中津城下から、九州の東海岸を通って、別府、大分をへて、南九州の延岡・宮崎方面にのびる江戸時代の街道で、道ばたには、大きな松や古い石垣、ほこらなどが残っていました。

ここで昔の道はせまかったこと、武士たちが行列をつくってこの道を歩いたこと、さらに、農民たちが、藩主におさめる年ぐ米を運んだことなどについてくわしく説明をしてくれました。

⑤　横断道路と交通路（九州横断道路写真）

この写真は九州横断道路を調べたときの写真です。先生は、

「この横断道路は、昭和三十六年にできたが、そのころから別府の町はだんだんと北にひろがりはじめ、石垣地区にも家がふえるようになった。」と話してくれました。ここで話をきいている間にも、大型の観光バスやよその県のナンバーをつけた車が走っていきました。

⑥　ふえる児童数（児童数変遷グラフ）

実地見学が終わったあとで、私たちは、研究計画をたてました。その時先生が、横断道路で「昭和三六年ごろから、石垣に家が多く建ち始めた」といわれたことが問題になり、なぜ別府の町が北へひろがったのか、そのわけを調べますということに意見がまとまりました。このグラフは、前のクラブ員が調べた石垣地区の生徒数のうつりかわりを表わしたものです。これで、三七年ごろから児童数がふえはじめ、四二年から急にふえているのが目だちます。四三年になると私たちの学校では、体育館まで四ツにしきって勉強したほど満員になりました。それで上人小学校が新しく生れたわけです。

⑦　石垣のもけい（模型つくりの写真）

このように発展する私たちの地域のようすを知るために、次のような調査をしました。

・別府のもけいをつくり、石垣地区と他の地区との結びつきを調べる。

・家の建ちならび方や新しくできた建物の種類などから発展のしかたを調べる、この写真は、もけいづくりのようすです、

これは、もけいの形がだいたいできたので、道路や川を書きこんだり、山や高原の名まえをつけ、他の土地とのつながりを、いろいろと話し合っているところです。

⑧　人の集まる石垣地区（観光絵図）

このとき

「別府は、両側に高い山があるのに集まってくる人が多いのはなぜか。」という意見がでたが、九州横断道路や観光港ができたので、人々が集まりやすくなったのだろうということになりました。これは観光港を中心とした観光絵図です。

⑨　石垣風土記（風土記写真）

これは、昨年までのクラブ員が、石垣地区の歴史・地理・社会についてまとめた「石垣風土記」です、私たちの研究は、この上に発展したものといえましょう。

⑩⑪　横断道路と観光港

つぎに、私たちは、九州横断道路、国道十号線や観光港にもいって調べることにしました。

これは観光港の写真です。先生は「きようの調査では、これまでになかった新しい施設について、注意して見るように」

とおっしゃいました。調べる途中腹がへって、いやになるようなこともありましたが、次々とあたらしい建物があるので、苦しい中にも、楽しい研究をすすめることができました。

⑫ 新しい施設

その結果、九州横断道路や、観光港ができてから、この沿線には、車の修理工場、車をうる店、車庫、スタンド、旅館など、船や車で別府にやってくる人のための設備がたくさんできたことがわかりました。この地図でもわかるように、それ等の建物は観光港や横断道路の周辺に集まっています。

このことについて、別府市街の建物のならび方や、前の別府桟橋のようすをあわせて調べると、観光港や横断道路付近が急に開けたわけが、いっそうよくわかるのではないかと話し合いました。

⑬ ふえていくアパート（グラフ）

つぎに昭和四十年にアパートや貸間が一二〇戸になり、わずか五年間に六倍にもなっています。これは第一に、交通の便利がよく景色がよいので人々が集まってきたからアパートができた。

第二に、集って来た人々は、土地のねだんが高いので土地が買えない。

第三に、お金を持っている人がアパートを建てて貸した。

第四に、土地やお金を持っている人がアパートを建ててくらしを豊かにしようとした。

以上の理由からアパートも人口もふえたのだという結論になりました。先生はその他に、「別府大学が北石垣にでき、多くの学生が集まったことも原因の一つになっている」とおっしゃいました。

⑭ 噴出する温泉（写真）

つぎに、あちらこちらに温泉の堀られていることが問題になりました。湯つきの技術がすすみ、温泉がたやすく堀られるようになったからです。

それで、温泉こうの数のうつりかわりを調べることにしました。

⑮ ふえた温泉こう（温泉こうグラフ）

これは、温泉こう数のうつりかわりのグラフです。昭和三十六年には六八あったものが大体同じような割合で増加し、昭和四三年には、三四九にもなっています。こんなにふえた原因は、前に説明した技術がすすんだ、だけではなさそうです。このことについても私たちは話し合ってみましたが、そのときに出た意見は

- 人々がぜいたくになった。
- アパートは温泉を堀らないとかり手がない。
- 温泉をめあてにやってくる人が多く、堀る人も多くなった。
- 観光港が北に移動し、九州横断道路ができたので温泉を利用した旅館やホテルがふえて来た。などであり、堀る技術についてはあまり意見がでなく、金さえあればいつでも堀られるというような話し合いになりました。

⑯ かわる職業（職業別グラフ）

つぎに私たちは、石垣地区の職業別世帯数を調べてみました。昭和三十七年には、農業二七パーセントで、会社員をあわせて三八パーセントをしめるようになりました。

このことから石垣地区は、単に人口がふえただけでなく、近郊農業地区から、別府の住宅地区に変化したことがわかります。

⑰ 残っている広い土地（写真）

私たちは、北に広がる別府について、いろいろと研究してきましたが、原因を別の立場からみると、広い土地があり、そのうえ、台地の景色がすぐれていることです。

この写真は、学校の屋上から西の方の鶴見山をながめたところですが、ここにも開かれていない森や林が残っていることがわかります。

⑱ 区劃整理のすすむ広い土地

また、ここは、日豊本線と、旧国道の間にひろがる水田地帯で、南から北の方をながめたもので、あたらしいまっすぐな道が長く北にむかってのびています。写真の右手が別府湾で、左手の方が山の手にあたります。

⑲ 開けゆく石垣原写真

この写真は、別府のテレビ塔から、北方の石垣地区をながめた写真です、水田の間に大きな建物がつぎつぎと立ちはじめ、近ごろの石垣地区の発展のようすをはっきりとみることができます。

⑳ 変化する石垣（想像図写真）

このように発展している石垣は、これから先どのようになるのでしょうか。日豊本線から東の国道十号線ぞいと、横断道路附近は、商店や旅館がたちならび、私たちの学校の両側、実相寺の丘を中心とした一帯は、公園地域となり、その他の地域は、住宅街になるだろうといわれています。

㉑ 私たちのねがい

私たちは、これからの石垣地区は、どうなればよいかということについて話し合いました。

第一に私たちの学校附近は、道路がせまく、そのうえ交通量が多いため、毎日登下校時には多くの危険にさらされています。それで、車の通る大きな道路や、人々が安心して通れる道路がほしい。

第二にまだ土地のたくさんある石垣地域なので、家族みんなが安心して生活でき、気がるに遊べる広い公園がほしい、などいろいろな意見が出ましたが、まとめると、整備された道路、清潔で明るい住宅地、広い公園、観光客でにぎわう商店街を目標に町づくりをしたらよいということになりました。

㉒ 私たちの覚悟

最後に、国際観光都市別府ですから、ただ私たちが住みよいだけでなく、遠くから休養や遊びにこられる人々に満足してもらうにはどうすればよいか、みんなが意見を出し合ってよい別府をつくるために努力しようと思います。

5. 苦心と問題点

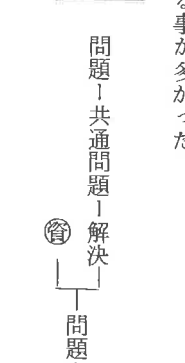
一、研究計画とスライド構成

郷土石垣がかかえている問題は何なのか、北へひろがる別府の現実はどんな問題をはらんでいるのか、それをさぐるために資料を蒐集し、資料から問題をみつけ、それを組み合わせながら全体構成をしたが、ここで苦心した事は、指導教師の意志統一をする時点で、研究時間がすくなく、思うような成果が得られなかった。一方、児童の側では、資料収集のしかたの理解、資料から発見された問題を共通問題にする点、更に共通問題の解決がすんだあと、他の解決した問題とどう関聯づけ、

どのような画面にあらわすか等に多くの時間を費してしまった。

二、問題の成立と共通化の時間が足りない。

一つの資料が適切で問題をはらんでいる場合もあり、二・三の資料を組み合わせたとき、はじめて問題となる場合もあった。然しこのようにして出て来た問題を、全員の共通問題とするためには、話し合いを必要とするので長い時間が必要である。ところがクラブ活動は月二回（合計九〇分）であり、クラブの時間だけでは到底無理だったので、土曜日の放課後や、夏休み等を利用する事が多かった。



三、写真の作成に苦心した。

スライド写真の作成は、最も苦心したものの中の一つである。中でも技術的にカラー写真の撮影は、私にとって重荷であった、何枚か撮影して一枚が成功する事もあり、全く無駄になった事もあった。しかもその無駄の発見には二週間の日時を要する、全くうんざりさせられた。専門家に依頼すればよいようなもの、刻々と変化する地域の様相、子どもの研究の進展度合、原稿構成の変更等が相ついだために、それも不可能なことであった。つまり写真作成は、最後までつきまとった問題であり、今も完成したとは言えない。

四、研究時間確保の苦心

クラブの時間は、隔週の水曜日第六時限で月二回、各四十五分で計九〇分が一カ月間に割り当てられた時間である。然もいろんな行事の関係で一カ月間に僅か四十五分だけの事もしばしばであった。これだけではとても、さきに述べた資料収集、

問題発見、討議、まとめなどをする事はできない。そのために割り当てられた時間は、研究計画、研究の意志統一、問題の共通化、討議等に費され、資料収集、資料整理、問題発見、討議問題の選定、スライド写真の撮影、発表練習等はほとんど時間外（土曜、日曜、臨時休業、長期休暇）をその時間に当てた。然し、その間子ども達は、たえずこの研究を意識し、積極的に作業を続け、校長、教頭をはじめ該当児童の担任教師は、この成功を願って積極的に援助して下さった事は何よりであった。

（別府市　石垣小学校教諭）

本誌原稿執筆要領

一、原稿の種類は、論文・史料・調査報告・見学記・会員（支部）通信・随筆・教育実践・時評・書評など。

一、原稿の長さは四百字詰原稿用紙四〇枚以内、縦書きとする。

一、文字は楷書、原則として当用漢字・現代かなづかいとする。ただし史料・固有名詞などはこのかぎりでない。

一、点（、）、マル（。）、並列点（・＝ナカグロ）、『　』「　」などは明確にし、一字とする。

一、改行は一字下げとする。

一、写真・凸版は一論文につき仕上り一頁大（16㎝×10㎝）までは会員担、超過分は執筆者負担とする。このため仕上り寸法を投稿の際明示のこと。また図版の浄書を要する場合の浄書代は執筆者負担とする。

一、文末に執筆者の現職・現住所明記のこと。

一、校正は原則として初校を執筆者が行ない、二校以降は編集者が行なう。なお、執筆者は初校修了後は速達で返送するものとする。

一、執筆者には、原稿掲載誌一冊と抜刷10部を謝礼として進呈する。抜刷を進呈分以上必要とする場合は経費執筆者負担とし、投稿の際必要部数を注文することができる。